



# 宇部サンド工業株式会社

顧客ニーズを的確に捉え、新規の用途開発や新規顧客の開拓を進めながら、安定した収益を確保し、2016年度は過去最高益を達成した宇部サンド工業。工場での安全意識の高揚や安全運動の推進に不断の努力を払い、創業以来無事故・無災害を継続していることも高く評価された同社の今と今後をインタビューしました。

本社・工場外観

## 常に安全(A)で、明るく(A)、あした(A)がある会社、「トリプルA」の会社でありたい

### 原田晋作社長インタビュー

—今回、二〇一六年度のグループ会社表彰を受賞した感想をお聞かせ下さい。

原田 とても嬉しかった、の一言です。過去最高の売上と利益を達成し、UBEグループが百社近くある中で当社を評価して頂いたことに感謝しています。さらに、創業以来三十二年間、無災害ということもベースになっています。昼夜を問わず一生懸命働いている社員のおかげですし、過去の先輩方に対しても感謝の気持ちでいっぱいです。

—受賞の理由をどのようにお考えですか？

当社は社名にある通り、サンド珪砂・珪石の製造販売を中心に、関連商品の取扱もしています。UBEの平野山鉱山より、シリカ分を多く含む、硬くて純度の高い珪石を運び入れ、粉砕・加工し、粒の大きさごとに包装して出荷しています。「宇部珪砂」というブランド名でユーザーから高く評価されており、西日本ではほぼ独占状態にあります。既存の塗装や錆をエ



原田 晋作さん 代表取締役社長

アーで吹き付けて剥ぎ取る「サンドプラスト用研削材」の用途が多いのですが、現在は、ポイラーでの焼却の際に添加して燃焼効率を高める「流動床炉用流動媒体」や建材の混和材としての用途も伸びています。

一方、プラスチック材に関しては「売れるもの何でも売る」という方針を掲げ、ガernet、アルミナなど珪石以外のプラスチック材の輸入や仕入れ販売を行う他、関連する機械や設備も取り扱っています。「プラスチック材に関することは宇部サンド工業に」とお客様から頼られるスタンスで営業活動をしており、今日では売上の半分を商社的な事業で得ている状況です。

社員がこうしたユーザー本位に徹底しているのが表彰理由の一つと考えます。製造現場では三直三交替で平日フル稼働の中、契約電力量や作業時間の制約などの縛りを取り払って対応し、タイムリーに高品質な製品を出荷することでおお客様の期待に応えてくれました。営業部隊はフットワーク良く、どこにでもすぐ飛んできますし、お客様のニーズをとらえて新規商材の開拓も積極的に進めています。

需要に応じて製造、営業、総務が連携して対応することで、社内のコミュニケーションが一段と良くなっています。まだまだポテンシャルがあると感じていますので、それを引っ張り出すのが私の仕事だと考えています。

—現在注力している取り組みは？

当社はUBEの山陽無煙鋳業所の跡地を利用

して製造をしていますが、導入から五十年以上経過した設備もあって、経年劣化が進行しています。フル操業をしながら、限られた時間内で計画的に補修やメンテナンスをしなければなりません。ところが、運転と保全の両立は当社にとっての「Change & Challenge」です。作業環境をもっと良くしていく、古くても綺麗にする環境整備は安全と健康のベースですので、妥協せずに実行していきたい。

直感が薄れてしまうでしょう。「いつかやろう」という考えではいつまで経ってもできません。それゆえ、すぐに二つの古い建物を壊して、新たな事務所棟を新築しました。今では新しい会議室で情報共有を図れますし、本音ベースでの発言も出て、モチベーションの向上になっています。目下の目標は、高校や大学の新卒者を採用できる会社にする。さらには、社員の子供が入社したくなる会社、入社させたい会社にする。ことです。そのためには、ソフトやハード面の整備にまだ時間がかかりますが、この基準があ

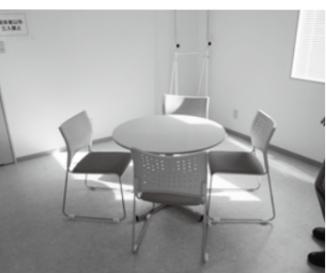
れば、当社がどういう会社でなければならぬかを社員一人ひとりが考えるはず。そして、一つひとつの判断や行動も変わってくるでしょう。顧客満足度の向上を追求するとともに、従業員満足度も高めるのが社長の使命です。従業員が一年に一度でも当社に入社して良かった、仕事をしておかたと思ふ瞬間がある、そんな会社にしたい。常に安全(A)で、明るく(A)、あした(A)がある会社、まさに「トリプルA」の会社でありたいという気持ちを強く抱いています。



製造課の井方 芳朗さんが考えたスローガンが受賞。「本当に素晴らしく、嬉しい。会社の誇り」と原田社長は絶賛。会社の入口に標語を掲示し、来場者にもPRしている



工場構内の天井クレーン建屋はUBE山陽無煙鋳業所時代のもの。頑丈な造りのため、保身をしっかりとすればまだまだ



新事務所棟と現執務室のつなぎ部分のスペースは、ミーティングスペースとして社員や来客に好評。「リラックスできると本音が出ます」と原田社長



右側の建物が新築した事務所棟。2階の広い会議室では業務での使用の他、地域住民を招いたり産業観光ツアーでのプレゼン時の使用も予定

会社概要		2017年8月現在
資本金	5,000万円	
従業員数	20名	
株主	宇部興産(株) 100%	
所在地	山口県美祢市大嶺町奥分 332-9	
沿革		
1897年	渡沢栄一他が山陽無煙炭鋳業	
1904年	海軍省が直轄経営	
1944年	宇部興産(株)山陽無煙炭業所発足	
1970年	山陽無煙炭鋳業所閉山。フェロシリコン事業を目的に宇部電気化学(株)設立、フェロシリコン生産と珪石加工開始	
1985年	宇部電気化学(株)解散。宇部興産全額出資で当社設立	
1988年	商事部門を開設	
1993年	ガernetの仕入れ販売開始	

## VOICE

### 設備が古いからこそ気を引き締めている



松山 茂さん 製造部 製造次長

松山 当社の製造設備は、古くは50年以上前の炭鉱時代から、多くは前身の宇部電気化学(株)の時から稼働しています。フル生産が続く中、いつ修理や補修を行うのか考えなければならないところが悩ましいです。製造ラインが1本しかないため、壊れてからでは遅い。長期計画に基づいて、古い設備を徐々に更新していく予定です。安定生産のためには日々の点検が重要で、私達は音や振動などの五感を使って、設備の状況を判断してきました。次世代を担う若い人達には機械もしくはITによる点検方法が必要かもしれません。点検業務の負荷が減れば、その分、他のことに振り向けられます。現在、製造面での技能伝承を課長や係長に引き継いでいますが、基本的なところは受け継いでもらい、その後は自分なりに変えてもらって、持続的に会社が発展していければと期待しています。

当社が創業以来32年間も無事故・無災害記録を更新していることは、製造に携わる者としてはプレッシャーに感じています。しかし、設備が古いからこそ気を引き締めていますし、メリハリがついた仕事をするよう心がけています。また、設備を大事に使おうという気持ちも湧いてきます。製造担当の皆が協力してくれますし、なにより皆のモチベーションが高い。特に30代が頑張っています。頑張り過ぎてケガをしないよう、注意してほしいものです。

### プラストに関してはすべて宇部サンド工業にお任せを！

山本 販売担当として、「宇部珪砂・珪石粉」はもちろん、各種プラスチックや設備機器など、利益が見込めるものはすべて売る、の精神で営業活動しています。プラストに関してはすべて当社にお任せ頂けるよう、お客様の要望に応じていきたい。「できません」とは言わないよう心がけています。2007年に珪砂がプラスチックのJIS規格から除外された際は、需要が落ちて、かなり苦しい状況に陥りました。しかし、他の用途の開拓や商社機能の拡充、適量生産を構築することで、業績が安定しました。今ではJIS規格の除外はタイミングが良かったと考えています(笑)。



山本 英樹さん 販売部 販売課 販売課長

お客様の下に頻りに顔を出すよう心がけています。プラスチック用途はライバルも多く、価格勝負の面もありますが、FACE TO FACEで接していれば、いざという時、断られにくいものと考えます。仕事の話は5分、あとはコミュニケーションの時間と位置づけて、お客様との関係強化を図るとともに、新しいニーズは何か、プラストに関するお悩みはないかアンテナを張っています。お客様と仕入先、そして製造部門をつなぐのが販売担当の使命と考え、これからもフットワーク良く飛び回っていきたくです。

### 自分の居場所、存在感が感じられる会社であるために



内 栄利子さん 総務部 総務課 総務係長 (前列右) 渡辺 政恵さん(左)、木村 友子さん(中)、福永 亜紀さん(右)

内 総務担当として、いろいろと改革をしなければと考えています。まだまだ効率化を図ったり、改善を図る余地は多々あると思います。一方、従来のやり方が身に染みていたり馴染んでしまっていて、当たり前前に感じている自分があるのも事実です。「こうしたらもっと良くなるか」「このやり方に替えたらどうなるだろうか」と常に頭を刺激し、発想を切り替えながら、業務を見直す機会を増やしていきたいです。

私の目標は社員が力を発揮できる職場づくり、モノが言いやすい職場づくりです。総務部は他部署との関わりが多く、他部署同士の間に入ることが多々あります。そこで、挨拶はもちろん、時には雑談や無駄話をする中で、話しやすい雰囲気を作成し、社内のコミュニケーションが良くなればと期待しています。

さらに、若手社員が自発的に行動を起こすような会社であると、もっと会社が活性化すると考えます。そのためには職場が楽しく、しかも自分の居場所、存在感が感じられる会社である必要があります。皆がそうした思いを強く感じられる会社であるために、一步一步できることから取り組んでいきたいと思っています。